

**公益社団法人日本精神保健福祉士協会**  
**スーパービジョンの更なる普及啓発をめざして**  
**～認定スーパーバイザーの皆さまへのアンケート～**  
**報告書**

認定スーパーバイザー（以下、認定SVR）養成委員会では、実践現場でスーパービジョン（以下、SV）の普及と定着が進んでいるとは言い難い現状を踏まえ、SVのさらなる普及・啓発のために必要な事項を検討するため、認定SVRの皆さまのご意見を伺いたいと考え、アンケートを実施させていただきました。ご多忙の中、多くの認定SVRの方々からご回答いただきましたことを、改めて厚く御礼申し上げます。また、みなさまに通知することにしておりましたアンケートの結果について、この度ようやく御報告するに至りました。アンケート実施から1年を経過しての報告となりましたこと合わせてお詫びいたします。大変申し訳ありませんでした。

今後、認定SVR養成委員会では、今回のアンケートの結果を議論の参考とさせていただいて、全国でSVが普及、定着していくための方法や仕組み作り等を検討していきたいと思っております。

## **I. アンケート調査結果**

### **1. 概要**

総回答数 77名（回収率 70.0%） 調査対象は110名（2020年3月24日現在）  
調査実施日（2020年2月6日～3月22日）

### **2. 現在、スーパービジョン（SV）を実施されていますか。（n=76）**

- 2-1 実践している 41名（53.9%）
- 2-2 実施していない 35名（46.1%）

2-1 実施していると答えた人のうち、個人SV29名、グループスーパービジョン（以下、GSV）7名、両方を実施している人5名である。

#### **2-2 実施していない理由（35名 M.A.）**

依頼がない・希望者がいない	24名（68.6%）	回答者全員の31.6%
業務等が多忙で実施できない	12名（34.3%）	回答者全員の15.8%
自己都合（病気等）で行えない	3名（8%）	回答者全員の4%

### **3. 現在、WEB サイト会員ページ内において認定スーパーバイザーを紹介しております。構成員以外のソーシャルワーカーへのSVの普及のために、一般ページに移すことの可否をお聞かせください。（n=77）**

- 3-1 賛成 57名（74.0%）
- 3-2 反対 3名（3.9%）
- 3-3 どちらともいえない 17名（22.1%）

### 3-1 賛成の理由

- ① 協会加入者を増やすー協会に関心ー構成員メリット 20
- ② SV の普及のため 33
- ③ SW の質 成長 10
- ④ その他 8

回答の中で最も多い理由は「構成員以外の者がSVを知り受けやすくなる」が25名と最も多い。「構成員であろうとなかろうとSVを受けることができやすくなる」を加えると30名以上の回答(53%)と半数を超える。関連して「構成員にSVを普及させるため」と回答しているのが13名、これらをすべてSVの普及啓発という言葉で括ると43名(75%)という高い率をみることができる。

その他「協会入会のきっかけとなりうる」に分類できる回答は7名(12%)、その他、協会の取り組みの広報となる、スーパーバイザー(以下、SVR)へのアクセスがよくなる、閲覧がしやすくなる、などの回答がある。

### 3-2 反対の理由 3名

- ① 本業を持ちつつ応募が増える負担への不安
- ② 非構成員とのSVにおけるトラブルの補償がない
- ③ 自分の名前が載ることにプレッシャーを感じる

### 3-3 どちらともいえない理由 17名

- ① 構成員にすら普及していないにもかかわらず 4名
- ② 一般公開より認定者数が少ない状況の解決が先 3名
- ③ 問い合わせが殺到して負担・困難が生ずる可能性 3名
- ④ 所属先が公開される不安・ややこしきの増加不安 3名
- ⑤ そもそも構成員以外はWEBを見ないのではないか 1名
- ⑥ 協会認定であるのに一般公開はおかしい 1名
- ⑦ 特になし 1名
- ⑧ 認定SVR数が圧倒的に少ない(意味があるのか) 1名

## 4. 都道府県精神保健福祉士協会等の活動において、認定スーパーバイザーとしてどのような参画をされていますか。(自由記述)

この設問に関して、「自由記述」で回答して頂いたので、次のような分け方で7つに整理する。

#### ・参画している(54名) 70.1% …… 複数回答あり

- A. 都道府県協会の会長・副会長・理事・事務局などに就任して、都道府県協会の組織的な運営を担うとともに、研修などの運営実施に関与して参画している。(10名)
- B. 都道府県協会の研修やSVの企画運営やSV委員会などに関与して参画している。(38名)
- C. ニュースレターの発行などSVの広報普及の活動に関与している。(4名)
- D. 日本精神保健福祉士協会の基幹研修の講師等に参画している。(3名)

E. 個別 SV 及び GSV、事例検討会などを実施している。(8名)

・ 参画していない (23名) 29.9%

F. 機会があれば役割を果たしたいが、現在は参画していない。10名 13.0%

G. 特に何もしていない。13名 16.9%

回答の中で、A. Bにあるように都道府県協会において何らかの立場にあつて、組織的な運営や実施に関与し、研修やSVの企画運営やSV委員会に関与すると回答した人は48名(62.3%)である。また、特に何もしていない人は13名(16.9%)であった。

5-1. 情報交換、情報共有を目的とした、認定スーパーバイザー専用メーリングリスト作成の是非について伺います。

A. 必要だと思う 55名 71.4%

B. 不要だと思う 22名 28.6%

5-2. 「5-1」の回答について理由・意見がありましたら教えてください。

A 必要だと思う

1. 情報交換で新たな可能性が生じるなら
2. 実施上の疑問や不安を話し合える
3. SWの自己研鑽に認定SVRが連携してアプローチするため
4. 活用されるなら
5. 各地域の情報が共有できる
6. あっても良い

B. 不要だと思う

1. 無くて良い
2. 情報過多
3. 機能しない(形骸化する)
4. 活用方法や内容が明確じゃない(意義や必要性の説明がない)
5. 余裕がない
6. 必要ない

アンケートの回答の理由の記述内容をみると「何のためにメーリングリストを作り」、「どのように活用するのか」ということが明確になっていないという指摘が多く見られた。

SVを全国展開するために協力関係や情報を共有するためであれば「必要」と考える人が多いといえる。しかし、協会活動の他で何らかの役割を既に持っている人は、特に「情報過多」と感じ、これ以上関与は困難と感じているという印象がある。

6. 現在認定スーパーバイザーとしての責務として、「SVの実施」「協会等が実施する講義の講師」「都道府県協会等の連携と協力」の3点を掲げております。新たに「都道府県におけるSVの普及・啓発（認定スーパーバイザー不在の近隣県への働きかけを含む）」を加えることへのお考えをお聞かせください。（自由記述）

A. 概ね賛成	60名	77.9%
B. あまり賛成ではない	14名	18.2%
C. その他	3名	3.9%

この設問に対する回答は、「賛成」「反対」の数よりもむしろ意見の内容が重要と思われる。「賛成」の意見や「反対」の意見においても、意見の内容としては大きな差異がみられなかった。回答している人の多くは、認定SVRとしての責務があるという認識があり、協会活動に何等か協力したいという意識を持っていて、SVの普及啓発の必要性に賛成している。しかし、認定SVRの人数が少なく、個人的な負担が増加する可能性があり、認定SVRの養成が急務であることと、SVの普及啓発のためには、本協会や都道府県協会が認定SVRを活用するシステムを構築することが必要であると感じている人が多い。認定SVRの責務の中には、日本協会や都道府県協会の組織的課題と思われるものも含まれているのではないかと感じており、それを認定SVR個人の取り組み目標にしていることへの限界を感じているという意見は、賛成、反対の両方に見られた。

#### 7. 研修センターへの要望があればお書きください。

この要望に関する回答には、18名の方々から当センターの活動に対する謝辞を頂き、14名の方から要望を記述していただいた。

要望の内容として、認定SVRの更新システムに関する要望が3名からあり、当センターが行う研修内容について、メンタルヘルスの各領域に特化した研修、SV自体を知ることや実際に体験してみようを目的とした研修、障がいのある人が参加できる防災避難訓練が行えるようなワークショップを、という内容だった。また、基幹研修のシステムにSVを受け入れることを義務化することや、認定SVRの活動実践集のような書籍の発刊の要望もあった。

さらに、SVの実施体制の構築として、ブロックや県をまたいだ鑑みた実施体制の提案としてSVを受け入れる仕組みの構築に関する要望や、認定SVR養成研修の会場を東京以外でも実施してほしいという要望もあり、社会福祉士会やMSW協会やASW協会とSVR養成に関して連携・協力してほしいという要望があった。

## II 調査結果による今後の検討課題

1. 認定SVRの70%の77名の方が回答された。その中で、53.9%の41名の方がSVを実施している一方で、35名（46.1%）が実施していないという現状にあり、実施していない理由の中で、回答者全員の31.6%の24名が、「依頼がない・希望者がいない」という理由でSVが実施されていないということであった。都道府県協会の中で、認定SVRの存在が十分に認識されていないのか、またはSVの活動が組織的に位置づけられていない可能性が背景にあると考えられる。

2. また、実施していると答えた人のうち、個人 SV29 名、GSV 7 名、両方を実施している人 5 名である。GSV について実施している人は 12 名になり、その実施方法についての研修の実施などの検討が必要である。

3. WEB サイト会員ページ内において認定スーパーバイザーの紹介を構成員以外のソーシャルワーカーへの SV の普及のために、一般ページに移すことの可否については、賛成は 57 名 (74.0%)、反対は 3 名 (3.9%)、どちらともいえない 17 名 (22.1%) であった。SV の普及と認定 SVR に対する認識を深化させるためには、一般ページへの移行についての議論が必要である。

賛成、反対、どちらの意見にも共通していたことは、①情報開示についての不安、②SV 実施の対象者が拡大された場合、精神保健福祉士、社会福祉士、相談支援専門員、様々な分野の SW に対応していくことへの不安や戸惑いによって賛成、反対の意見が分かれたと考えられる。

4. 「都道府県精神保健福祉士協会等の活動において、認定 SVR としてどのような参画をされていますか。(自由記述)」という質問に関しては、活動内容についての具体的な内容を示さないままであったので、回答を記述しづらかったことをお詫びしなければならない。

そのため、回答されたものを便宜的に 7 つに分けて考慮した結果、積極的に都道府県協会の活動に関与していると回答した人は 48 名 (62.3%) である。また、特に何もしていない人の 13 名 (16.9%) と協力したいが現在は何もしていない人を加えると 23 名 (30%) になることは予想以上であった。

都道府県協会に認定 SVR として活動する組織上のシステムの仕組みがある場合は、協会活動に認定 SVR として参画しているという認識も得やすいが、各都道府県協会地区に認定 SVR を活用する仕組みが無い場合には、「依頼が無ければ協力しようもない」という意見につながると考えられる。

都道府県単位で SV 委員会を設置して組織的に活動している都道府県協会と、認定 SVR が点在している地域によって大きな差異が生じている状況にあって、都道府県協会の活動とコミットできるためには、認定 SVR の養成が喫緊の課題であるとともに、認定 SVR が都道府県協会の活動に連携協力できる仕組みづくりの検討が求められている。

このことは、認定 SVR の責務として「SV の実施」「協会等が実施する講義の講師」「都道府県協会等の連携と協力」の 3 点に「都道府県におけるスーパービジョンの普及・啓発」(認定スーパーバイザー不在の近隣県への働きかけを含む)を加えることについてのアンケートの回答結果においても、同様のことが多数見られた。

5. 認定 SVR 専用のメーリングリストの作成の可否については、55 名 (71.4%) の方が必要であるという回答であった。今後、SV を全国的に展開していくためには、認定 SVR 同士が所属する都道府県の支部地区を越えてブロックや地域全体で連携協力することが求められることになり、今後さらに検討課題として考慮する必要がある。

## ○資料編

公益社団法人日本精神保健福祉士協会  
スーパービジョンの更なる普及啓発をめざして  
～認定スーパーバイザーの皆さまへのアンケート～

### 実施要領

#### 1. 目的

2003年度から認定スーパーバイザーの養成を開始し、2020年1月現在、110名の登録者が誕生しました。認定スーパーバイザー養成委員会では、精神保健福祉士の成長にはスーパービジョンが必須ととらえ、その普及・定着をめざして取り組んできました。

しかし、現在なお、スーパービジョンが実践現場で定着しているとは言えません。

そこで、スーパービジョンのさらなる普及・啓発のために必要な事項を検討するため、認定スーパーバイザーの皆さまに対してご意見を伺いたいと考えました。

結果は、認定スーパーバイザー養成委員会において議論の参考とし、全国でスーパービジョンがより活発に展開され、定着させるための一助とさせていただきます。

#### 2. 対象

認定スーパーバイザー（110名／2020年2月6日現在）

#### 3. 方法

インターネットを通じた専用ウェブフォームからの回答（記名式）

<http://www.japsw.or.jp/a/2019-an4/>

※構成員マイページでも上記 URL をお知らせしています。

これから構成員マイページへ登録される方は同封のチラシをご覧ください。



#### 4. 実施期間

2020年2月6日（木）～3月22日（日）

#### 5. 倫理的配慮

- 1) 本アンケート調査へのご協力は、任意、自由意志に基づくものですので、調査に協力いただかないことによって不利益が及ぶものではありません。
- 2) 本アンケート調査で得られた情報は、本協会事務局内にて厳重に保管します。
- 3) 本アンケート調査の集計等は、本協会事務局にて実施いたします。
- 4) 本アンケート調査の結果報告時には、回答者氏名を公表することはありません。

#### 6. 結果のご報告

認定スーパーバイザー各位へ結果をご通知するとともに、認定スーパーバイザー養成委員会における検討資料として活用させていただきます。

## アンケート項目

### 1. タイトル

SV の更なる普及を目指して～認定スーパーバイザーの皆さまへのアンケート～

### 2. 設問項目

1-1. 現在、スーパービジョン (SV) を実施されていますか。

- A 実施している
- B 実施していない

(1-1 の選択によってどちらかが表示される)

1-2. 「1-1」でAを選択された方に伺います。その頻度と回数を教えてください。(自由記述)

1-2. 「1-1」でBを選択された方に伺います。その理由をお聞かせください。(自由記述)

2-1. 現在、WEB サイト会員ページ内において認定スーパーバイザーを紹介しております。構成員以外のソーシャルワーカーへの SV の普及のために、一般ページに移すことの可否をお聞かせください。

- A 賛成
- B 反対
- C どちらともいえない

2-2. 「2-1」でそれぞれ選択された回答の理由をお聞かせください。(自由記述)

3. 都道府県精神保健福祉士協会等の活動において、認定スーパーバイザーとしてどのような参画をされていますか。(自由記述)

4-1. 情報交換、情報共有を目的とした、認定スーパーバイザー専用メーリングリスト作成の是非について伺います。

- A 必要だと思う
- B 不要だと思う

4-2. 「4-1」の回答について理由・意見がありましたら教えてください。(自由記述)

5. 現在認定スーパーバイザーとしての責務として、「SV の実施」「協会等が実施する講義の講師」「都道府県協会等の連携と協力」の3点を掲げております。新たに「都道府県における SV の普及・啓発※」を加えることへのお考えをお聞かせください。(自由記述)

※「都道府県における SV の普及・啓発」には、認定スーパーバイザー不在の近隣県への働きかけを含みます。

6. 研修センターへの要望があればお書きください。(自由記述)

ご協力ありがとうございました。

○2020・2021年度 認定スーパーバイザー養成委員会

委員長 北森めぐみ（順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院／埼玉県）  
副委員長 西銘 隆（田崎病院／沖縄県）  
副委員長 池沢 佳之（ハートクリニック／神奈川県）  
委員 今井 博康（北翔大学／北海道）  
荒田 寛（龍谷大学／滋賀県）  
石川 到覚（大正大学／東京都）  
池谷 進（あおぞら相談室／山梨県）  
森山 拓也（城西国際大学／千葉県）  
中村 雅代（刈谷病院／愛知県）  
名誉会長 柏木 昭（聖学院大学総合研究所スーパービジョンセンター／埼玉県）  
担当副会長 廣江 仁（養和会／鳥取県）  
担当理事 岩尾 貴（しごと・くらし応援センターはるかぜ／石川県）

---

公益社団法人日本精神保健福祉士協会  
スーパービジョンの更なる普及啓発をめざして  
～認定スーパーバイザーの皆さまへのアンケート～報告書

2021年3月1日（月）発行

（発行）公益社団法人日本精神保健福祉士協会  
（所在地）〒160-0015 東京都新宿区大京町2-3-3 四谷オーキッドビル7F  
TEL. 03-5366-3152 FAX. 03-5366-2993 E-mail:office@japsw.or.jp  
URL: <http://www.japsw.or.jp>

---

本書を無断で複写・転載することを禁じます。